



臨床研究に関する情報の公開

作成日:2024/01/14

研究課題名	高度近視眼における近視性網膜神経線維障害および緑内障性変化の特徴に関する検討
研究の対象	2006年9月～2024年8月に緑内障または緑内障疑いとして当科受診した症例
研究目的・方法	<p>緑内障は視神経乳頭における神経線維の障害を発端に、視野欠損を生じる疾患である。発症の最大の危険因子は眼圧であるがその他の危険因子の一つとして近視がある。近視眼の中でも特に高度近視眼では早期より中心に近い部位に視野欠損を生じる症例が多く、視力低下を生じやすいことが知られており、特に高度近視眼における緑内障の診断や神経線維層障害部位の把握は重要な課題である。通常緑内障の診断は視野検査および検眼鏡での視神経乳頭の陥凹所見をもって確定されるが高度近視眼では視神経乳頭の形状が非近視眼とは異なるため緑内障の診断が難しい。また検眼鏡的検査に加えて緑内障診断に有用な画像検査においても、近視眼特有の網膜神経線維層分布や神経線維層厚変化などのために自動解析での緑内障スクリーニングが難しいという現実がある。その他、高度近視では高度近視変化に付随する網膜神経線維層障害や乳頭、乳頭周囲変化など視野を修飾し得る構造学的異常の存在が指摘されており、高度近視緑内障眼における緑内障診断では緑内障性変化の他に高度近視性変化の評価も必要である。このように高度近視眼における緑内障診断には多方面から検討を行う必要があるが、いまだ高度近視眼における近視性構造異常の有病率や長期的経過、また緑内障性変化の特徴やその関連因子、長期的経過についての情報は少ない。</p> <p>今回高度近視眼における構造異常と緑内障性変化の特徴およびその経過について検討することとした</p> <p>研究期間：許可日～2025年3月31日</p>
研究に用いる試料・情報の種類	情報：既往歴、年齢、性別、視力、屈折度数、眼圧、角膜厚、眼軸長 視野、光干渉断層計（OCT）、OCT アンギオグラフィー、scanning laser ophthalmoscopy 画像、
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先 〒530-8480 大阪市北区扇町 2-4-20 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 眼科主任部長 田辺晶代（研究責任者） 電話：06-6312-1221、FAX：06-6312-8867</p>